令和８年度　　第６学年　　授業改善推進プラン　　小平市立小平第二小学校

	課題（児童の実態、学習状況、指導の実態）	改善プラン（課題の改善プラン、具体的な手だて）
国語	・物語文や説明文を読む学習では、叙述に即して心情等を読み取ったり、根拠を明確にして大切な情報を読み取ったりする力が不十分である。 ・書く活動に消極的な児童が多い。また、より分かりやすく正しく伝わるように工夫したり、事実と感想、意見とを区別して書いたりすることに個人差がある。 ・自分の考えを積極的に伝えること、相手の立場や意図を考えながら聞くことが不十分な児童が見られる。 ・既習の漢字を日常的に適切に使うことができない児童も見られる。	・物語文や説明文を読み取るときに、重要な言葉や文章に着目させるとともに、常に本文に立ち返らせながら根拠を明確にして自分の考えを組み立てるよう指導する。 ・型を提示して文章構成を整理させながら書かせたり、手本を真似て接続詞や文末表現を工夫させたりすることで、分かりやすい文章を書くことができるようにしていく。また、事実と感想、意見とを明確に区別して書くために文末表現に注意して書くことを指導する。 ・自分の考えを話すことへの抵抗感を減らすため、少人数グループでの「話す・聞く」の活動を十分に確保する。また、話を聞く視点を提示することで、質問をしながら話の要点に着目して聞くことができるよう指導する。 ・ノート指導や作文指導を通して、既習の漢字を忘れた際には漢字ドリルや漢字辞典を使うことができるよう学習環境を整える。また、定期的に前学年までの漢字も復習する機会を設ける。
社会	・歴史的事象や人物への興味や関心は個人差が大きい。また、聞き慣れない言葉や人物の働き、文化財の情報が多く、習得させたい「基礎・基本」に関わる事項について苦手意識をもつ児童もいる。 ・資料から学習問題を立てたり、調べたりする活動に意欲的に取り組む児童もいるが、複数の資料を「比較・総合」し、そこから考えようとする態度を育む必要がある。	・歴史的事象や人物に対する興味や関心を深められるような資料を用いて、自分なりの気付きや考えをもたせるとともに、それらを交流する場を多く設ける。また、我が国の伝統や文化が長い歴史を経て築かれてきたものであること、そうした遠い祖先の生活、人々の工夫や努力にも目を向けさせ、今日の自分たちの生活と深く関わっていることに気付かせる。 ・資料の見方を丁寧に指導していくとともに、複数の資料を参照するときには資料を読み取る視点を示し、比較させたり、「分析・統合」させたりする。また資料から読み取れる事実を全体で丁寧に確認した上で、そこから考えられる事柄を表現させる。

	・自分の考えを表現する際、必要な資料を適切に選択し、まとめることができない児童も見られる。また、自分の言葉で考えを書くことにも差が見られる。	・必要な資料を選んだり活用したりするとともに、表現する方法に選択肢をもたせるとともに、交流を適宜入れることで自分の考えについて表現していく力を身に付けさせる。
算数	・５展開の習熟別指導を行っている。 ・既習である基礎的な知識や技能が定着していない児童、算数に対する強い苦手意識をもつ児童がいる。 ・問題解決型の学習に意欲的に取り組める児童もいるが、問題解決に向けて試行錯誤すること自体に苦手意識をもつ児童もいる。 ・自分の考えを筋道立てて表現することについて、個人差がある。	・計算などの基礎的な知識や技能は簡単な問題から取り組み、反復練習や個別指導を行うなど児童の実態に応じて習熟させる。 ・課題提示の仕方を工夫し、問題解決型の授業の展開を目指す。また、答えを求めるだけが目的ではないことを共通確認し、計算式だけでなく、言葉、図や絵などを用いて考えさせることで、筋道立てて問題解決ができるようにしていく。 ・自分の考えを表現させる際には、相手意識をもたせ、式はもちろんのこと、言葉、図や絵などを用いて表現させるようにする。
理科	・実際の実験や観察に興味関心が高い児童が多く、実験や観察の際に意欲的に取り組む児童が多い。 ・「変える条件」「変えない条件」を考え、条件制御をして計画を立てることに個人差がある。 ・経験や身近な事象から予想を立てたり、実験の結果からより妥当な考察をしたりすることに個人差があるとともに、苦手な児童も多い。 ・理科に苦手意識を持つ児童が一定数いることから、知識の定着に時間がかかる児童が複数いる。	・実物の提示が難しいときは、映像や画像を提示するなど、ICT 機器を効果的に活用する。 ・条件制御をする際、学習問題を再度確認し、「変える条件」「変えない条件」に分け、表を活用することで考えを整理しながら計画を立てることができるようにする。 ・実験や観察に取り組む前に予想や仮説を立てる時間を確保してから実験や観察を行う。より妥当な考察をすることができるよう、結果からどのようなことが分かるのかを考えたり、定型文を提示してそれに当てはめて書けるようにしたり、他の班の実験結果を共有する時間を設けたりすることができるようにする。 ・単元全体の振り返りを毎単元テスト前に行うことで、自分の理解度を図り、理解が不十分なところを確認させる。

体育	・主体的に体を動かしたり、認め合ったり励まし合ったりして授業に参加し、運動に対して意欲的な児童が多い。 ・苦手な単元など運動内容に対しては、一部の児童で積極性に欠ける面が見られる。 ・自らの学習を振り返り、次時のめあてを立て練習方法などを工夫していくことに若干課題がある。	・教材などを活用し、運動のポイントを明確に提示するなど児童がポイントを意識して運動に取り組めるようにする。 ・授業中に自己評価や相互評価の機会を設け、課題を解決できるようにする。
家庭	・興味関心が高く、学習したことを自分の生活にどう生かしていくかを考えることのできる児童が多い。 ・実習では、友達と協力し、助け合い、すすんで取り組む姿がみられる。 ・布を縫うことやミシンの操作などに、苦手意識をもっている児童もいる。	・製作の学習などでは、児童のつまずきの解決の手立てとして、タブレット端末を使用し動画でも手順を確認できるようにする。 ・グループでの活動や児童同士教え合う学習を通して、児童の主体的に学ぶ力を育てていく。
道徳	・自分の考えを伝え、道徳的価値について授業内で話し合いながら深めることができる。自分とは異なる考えを受け入れながら、学習したことを実生活の中で生かしていくことに課題がある。	・自分の生活を振り返りながら、これからの生活や生き方について考えられるように、資料を精選し、主題を設定する。また、学級活動や各教科とも関連付けて、道徳授業での学びが生かされるようにしていく。 ・児童の多様な考えが引き出せるような資料を選び、「何について議論するのか」という点が明確になるように発問を吟味したうえで、対話的な学びを展開させる。
外国語	・外国語の書く学習に対して、自分が伝えたいことを正しく表現することに苦手意識のある児童が多い。 ・英語で聞かれたことに対して、積極的に表現しようとすることに若干課題がある。 ・歌やゲームを通して外国語の学習に意欲的に取り組む児童が多い。	・文法や単語を日本語と関連させながら考えられるようにし、繰り返し発音したり書いたりすることで、基礎的な知識を身に付けることができるようにしていく。 ・パフォーマンステスト（スピーチ）を通して、自分が伝えたいことを英語で表現する機会を増やしていく。